

担任し
お別れハイ
春の山 忠文

神戸市会議員

ただ ふみ

うらがみ忠文新聞

2018年
春夏の号

喜んで登校、満足して下校。

題字の言葉は、この春、訪問した小学校の校長先生からお伺いしたモットーです。いいなあ、胸が熱くなりました。まいりました。こんな短くて、物事の本質を明るくさわやかに表した言葉をほかに経験したことがありません。

世界中の学校が、こうりたいものです。どんな組織でも企業でも、こういうことで行きたいものです。

学校に行く。勉強して、友だちとけんかして先生に叱られて、それで仲直りして、給食当番でバケツをこぼす失敗をしてクラス中に笑われて、これから気を付けようと思って、友だちに励まされて仲良く下校する。

また次の日、勉強して新しいことを知る。社会のありがたさに気づく。

学校は、夢と希望を育む創造の館。校長先生、熱い熱い大握手を交わしました。

うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元 大丸神戸店「くじゃく通信」編集長
- ・元 神戸市立御影北小学校 PTA会長
- ・NPO 障がい者就労支援作業所 副理事長
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2015年 神戸市会議員6選
- ・無所属「創造都市、福祉充実を目指す」

毎日発信のブログは、4,300回を迎えました。ありがたいことです！



JR住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に！

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 Eメール tadafumi@uragami.jp

うらがみ忠文

検索

●〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市会無所属 浦上忠文発行 TEL 078-322-5863

【議会報告】

春の本会議。私の代表質問の要旨。

■本年度の予算案で、市長は、次の6つの柱を提案された。

・輝く子どもたちの未来を創る ・健康安全をまもる ・街と地域を創る ・神戸経済を伸ばす ・陸海空の拠点を創る ・市政改革を進める、であります。中身は豊かで、このひとつひとつが本当に実行出来たら、素晴らしい神戸になると思う。

そのためには、市民の協力が欠かせないのではないかと。

「6つの柱」実現のために「市民ひとりひとりに期待すること！」を市民に語りかけてはいかがでしょうか。

★久元市長の答弁

浦上議員のお話を、さっきから聞いておりました思い起こすのは、ケネディ大統領の有名な就任演説ですね。

「国が何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい」

私は、ケネディ大統領ではありませんので、そこまで市民の皆さんに語りかける勇氣はありません。

市政のために何かをやって頂きたいというよりは、市民の皆さん1人1人が、隣人たちのために、地域社会のために、そして何か、人々のために何かをやって頂きたい、という気持ちを持ちます。

■イノシシの被害が神戸市は全国一だそうです。GPS(位置測定システム)を活用してイノシシの行動を調べ、有効な対策が出来ないでしょうか。

★岡口副市長の答弁

イノシシの被害は、たいへん深刻なものである。本市では、イノシシ条例で、餌付けの禁止と共に、猟友会との協力のもと捕獲にも取り組んでいる。

GPSでの調査は県が行ったことがあるが、決定的な有効策にならない。

山からのイノシシの進入路はハイキングコースが多く、わなの設置が難しい。

防護さくを設置しても、大回りしてやって来る。

効果的な方法について、専門家と調査研究を進めている。

当面は、餌付けの禁止と有害個体の捕獲に全力を尽くしたい。

ケネディ大統領の演説を、市長は英語で言われました。議場が沸きました！

浦上忠文



息白し君も
校長先生も
忠文

神戸市会議員

ただ ふみ

うらがみ忠文新聞

2018年
2019年
秋冬の号

希望が持てて、挑戦出来る。

短い話を書きます。

私がお手本にしている少女の話です。

公園を歩いていたら小さな子どもが転んで泣き出しました。すると、4歳ぐらいの女の子がかけよって来て、助け起こすのかと思ったら、転んだ子のそばに自分も腹ばいになりにつこり笑いかけました。

泣いていた子もつられて笑いしました。

女の子が起きようね、と言うと、小さな子は、うんと言いい自分で起き上り、ふたりは手をつないで歩いて行きました。

自力で起き上がることが出来た子どもは、さぞ嬉しかったことでしょう。

社会には、背中を押してもらわないと勢いの出ない人、ケアを必要としておられる方がたくさんおられます。

上から手を引っぱるのではなく、まず同じ目線に立つ市役所、区役所を作ります。

安心して暮らせ、希望が持てて、やりたいことに挑戦出来る神戸のまちに！

うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元 大丸神戸店「くじゃく通信」編集長
- ・元 神戸市立御影北小学校 PTA会長
- ・NPO 障がい者就労支援作業所 副理事長
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2015年 神戸市会議員6選
- ・無所属「創造都市、福祉充実を目指す」

ブログは毎日更新して発信。ホームページは毎月一日に！



JR住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に！

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 Eメール tadafumi@uragami.jp

うらがみ忠文

検索

●〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市会無所属 浦上忠文発行 TEL 078-322-5863

【議会報告】

夏、秋の本会議、私の代表質疑の要旨。

■高齢者の皆さまの意欲を大事に！

「何歳になっても、身体の動く限り働きたい」

という意欲を持っておられる方が、高齢者の三分の一おられます。内閣府のアンケート調査です。

そのパワーに、神戸市役所は応える体制になっているでしょうか。

そのエネルギーを、ほったらかしにしていることは、本人にとっても社会にとっても、もったいないと思われませんか。

高齢者パワー推進局を作るとか、積極的に取り組もうではありませんか！

★久元市長の答弁

できるだけ元気で長生きして頂く。できるならば、それぞれの方の健康状態に応じて働いて頂き、社会に貢献して頂くような地域社会を作っていくことは、たいへん大事です。

なんとなく働きたいけれども、機会を見つけることがなかなか出来ない方々に対して、どういうアプローチをしていくかが課題です。

保健福祉局だけでなく、市民参画推進局とか、行財政局とか、あるいは住宅都市局とかが情報を持ち寄って、高齢者の方にできるだけ元気に働いて頂くというような取り組みを各局横断的にやってまいります。

■在留外国人との、熱いコミュニケーション支援を！

神戸は外国人にあたたかい国際都市として、人道的にも多くの外国人を受け入れて来た。国は、労働者不足を補うために、受入れ拡大を図っている。共生のための環境整備方針を伺いたい。

★寺崎副市長の答弁

外国人支援について、先駆都市神戸の役割は大きいと考えている。

防災を含む生活情報をいかにわかり易く伝えるか、生活ルールを動画で説明しようと計画している。日本語の学習機会、住民との交流の機会をいかに増やしていくかも、重要な課題ととらえている。

高齢化社会やらグローバル化、
世界はどんどん課題が増えて、
楽しくなっていく。 浦上忠文

